

常任委員会の審査から

営業戦略農林水産委員会

水稲における温暖化への対策は収益性を分析し、高温に強い品種の導入を推進していく

問 県産米の作況と一等米比率の状況は。また、一等米比率が低下する要因の一つである温暖化への対策は。

答 現時点の作況は平年並みだが、「コシヒカリ」の県平均の一等米比率は約40%と低い。高温に強い品種「にじのきらめき」の導入に向け、収益性を分析し、奨励品種の指定も視野に入れて推進していく。

問 農産物のブランド化については、定量的な規格の設定による品質の均一化が必要だと考えるが、所見は。

答 ブランド化には、品質の均一化は重要だと考えており、例えば梨の恵水では糖度13度



「常陸牛 煌」を発表

以上を特選恵水として販売している。また、本年9月からオレイン酸比率や小ザシ指数^{※3}などに基づき厳選した「常陸牛 煌」の販売を開始した。(ほかに、干し芋残渣^{※4}の飼料化、DC^{※4}における地域との連携なども質問)

総務企画委員会

茨城ご当地グルメ総選挙が県への誘客につながるようなPRの方針は県外、海外に向け幅広くPRしていく

問 茨城ご当地グルメ総選挙^{※1}が県への誘客につながるよう、一歩先をいくPRを行ってほしいと考えるが、所見は。

答 プロモーション動画を制作・配信し、グルメフェスの認知度向上を図っていく。また、総選挙でグランプリを獲得したグルメは、県営業戦略部などと連携し、首都圏をはじめ、県外、海外に向け幅広くPRを行っていく。

問 本県のふるさと納税に係る実質的な収支は赤字であり、制度自体にも課題があると考えるが、県の所見は。

答 制度に対してさまざまな意見があることは承知してい



茨城ご当地グルメ総選挙は令和6年10月開催予定

る。しかし、制度がある以上、県や県内市町村をアピールするツールとして、有効に活用していく方針である。(ほかに、鹿島セントラルホテル事業譲渡の方針、旧岩井西高等学校敷地等の売却手順なども質問)

土木企業立地推進委員会

建設業界のICT機器普及に向けた取り組みは便利さを実感していただく機会を増やしていく

問 建設業界へのアンケート調査結果を踏まえると、ICT機器の普及に向けて、機器の所有率が低い小規模企業への普及が課題となるが、今後どう取り組むのか。

答 小規模企業がICT機器に触れて便利さを実感できる機会を増やし、ICT機器の普及と活用促進につなげたい。

問 市町村の開発計画に対し、県がイニシアチブを取って支援してほしいと考えるが、市町村に対し、どのような支援を行っているのか。

答 地域未来投資促進法に基づいた農地転用に係る特例措置の活用に加え、開発に必要な



ICT建設機械を活用した省人化施工

な各種手続に関して、市町村が産業用地をスピーディーに確保できるように部局横断的な体制で支援している。(ほかに、県管理河川における水位計およびカメラの設置状況と設置基準、道路などにおける除草対策なども質問)

防災環境産業委員会

台風第13号における市町村の防災部局と消防との連携は事前に注意喚起を行い、しっかり対応されたものと認識している

問 本年6月の取手市における災害で市町村の防災部局と消防との間の情報共有に課題があったが、今回の台風第13号の災害ではどう対応したか。

答 大雨が予想される都度、防災部局と消防との連携について注意喚起を行っている。今回も事前に注意喚起を行っており、しっかり対応されたものと認識している。

問 今回の台風第13号と同等の雨水を想定した場合、新産業廃棄物最終処分場の防災調整池や処分場西側の雨水排水の対応は。

答 防災調整池で一時的に貯留したのち放流することから



令和5年台風第13号による大雨被害の様子(日立市)

対応可能である。処分場西側についても、新設道路整備に伴い水路などを整備予定であり、適切な排水が可能である。(ほかに、原子力災害時の避難計画における避難先確保の考え方、インボイス制度の県内への影響なども質問)

文教警察委員会

新設の特別支援学校におけるICTの活用は障害による学習の困難を軽減するためにも活用を推進していく

問 新設される特別支援学校には多様な教育活動や特色ある施設整備などが求められるが、ICTの活用についてどのように考えているのか。

答 それぞれの障害による学習の困難さを軽減させるためのツールとしても、ICTを活用することは非常に重要で効果的であるため、今後活用を推進していく。

問 今回の台風第13号では警察、消防、自衛隊が出動したと聞いているが、自然災害時において各機関はどのように救助活動に取り組んでいるのか。

答 日立市宮田町地内の現場



特別支援学校の音楽の授業で「音あそび」をしている学習風景

では、警察、消防が取り残された住民の安全確保を行った。その後、警察、消防、自衛隊などで捜索方針を決めるなど連携の上、対応を図った。(ほかに、教職員の働き方改革、校長公募の今後の配置予定数と任期更新なども質問)

保健福祉医療委員会

台風第13号の災害ボランティア活動の活発化に向け、広報などに努める

問 台風第13号の災害ボランティアの参加を増やす必要があると思うが、周知の状況は。

答 活動の開始が平日だったこともあり、活動人数は被災者ニーズに対応できていない。遠方からも参加しやすくするため、週末は災害ボランティアバスを運行するなど、活動を活発化できるよう、引き続き広報などに努めていく。

問 来年の医師の働き方改革で、こども病院の医療機能の縮小が懸念されるが、所見は。

答 医師の勤務体制の見直しや医師業務の他職種への移管などにより、働き方改革に対応できる見込みである。県央・



災害ボランティアセンターに集まったボランティアの方々

県北の最後のとりでとして、医療機能を維持する責務があり、現状では何とかこの役割を果たせると考えている。(ほかに、難病指定から医療費還付までの迅速化、ケアリーバー^{※2}への対応なども質問)

ことば ※3【小ザシ指数】…専用測定機で計測した霜降りの細かさを表す数値。

※4【DC】…デスティネーションキャンペーンのこと。